

文部科学省と国立大学附置研究所・センター 個別定例ランチミーティング

第96回 京都大学 東南アジア地域研究研究所 (2024.10.4)

12:05 – 12:08 (3分) : 東南アジア地域研究研究所の概要

12:08 – 12:10 (2分) : 研究者と研究の紹介 (ビデオ)

12:10 – 12:25 (15分) : 山田千佳 助教 研究紹介
「人々の逸脱行動をめぐる公衆衛生と市民運動：東南アジアにおける薬物使用に関する事例から」

12:25 – 12:45 (20分) : 質疑応答



京都大学東南アジア地域研究研究所



Center for Southeast Asian Studies (CSEAS) since 1965

設置目的

- ・ 東南アジアを主とした世界諸地域に関する総合研究
- ・ 東南アジアを中心とするグローバルサウス研究

沿革

- ・ 1965年「東南アジア研究センター」設置（官制）
- ・ 2004年 附置研究所「東南アジア研究所」に改組
- ・ 2006年「地域研究統合情報センター」設置（民博⇒京大）
- ・ 2017年 統合により「東南アジア地域研究研究所」設置

教員の専門分野

地域研究、歴史学、文化人類学、社会学、経済学、政治学、国際関係論、地理学、農学、工学、林学、生物学、疫学、医学、国際保健学、情報学

研究部門

研究の特徴

- Contemporary 課題対応
- Interdisciplinary 文理融合学際研究
- Field based 現地立脚型アプローチ

相関地域研究
部門(人文学)

社会共生研究
部門(人文学)

政治経済共生
研究部門
(社会科学)

環境共生研究
部門
(自然科学)

グローバル生
存基盤研究部
門(社会科学)

研究センター(内部組織)

ASEAN研究プラットフォーム

グローバル情報ネットワーク

GCRセンター
(共同利用共同研究拠点)

海外連絡事務所

バンコク連絡事務所

ジャカルタ連絡事務所



京都大学東南アジア地域研究研究所

Center for Southeast Asian Studies (CSEAS) since 1965



教員・研究員数 (2024.9.1 現在)

	教授・准教授	助教	客員教員	特定助教	特定研究員	学振特別研究員等研究員	連携研究員 (称号付与)
定員	29	6	12				
現員 (2024.9.30)	25	7	11	4	8	8	94
(うち外国人)	7	0	8	3	8	3	22

予算 (2020-23年度平均) : 一般運営費の284%の活動規模

一般運営費 : 205,779千円、概算要求等競争的資金 : 41,063千円、

科研費・受託研究費等外部資金 : 168,142千円、産学連携寄託金(ダイキン工業) : 7,775千円(3年間)、民間研究資金(寄付-Arcadia(英国):海域アジア遺産調査) : 145,798千円、その他民間寄付等:15,460千円、総額 : 584,402千円



京都大学東南アジア地域研究研究所



Center for Southeast Asian Studies (CSEAS) since 1965

- 研究成果 (選任教員の業績 2020, 21, 22年度)

著書数 (分担執筆含む)	: 63, 59, 49冊
査読付学術論文	: 45, 54, 54本
その他論文	: 164, 263, 267本
各種受賞 (全教員・研究員)	: 3, 12, 6件

- 共同利用・共同研究拠点

「グローバル共生にむけた東南アジア地域研究の国際共同研究拠点(GCR)」

- 世界・国内の研究ネットワークの拠点展開 / 図書・デジタル資料の共同利用促進

- 研究所としての組織機能の特色

- 研究ネットワークの国際的拠点
- 東南アジア研究の世界的拠点としての専門図書館
- 学術発信のための出版編集活動



京都大学東南アジア地域研究研究所

Center for Southeast Asian Studies (CSEAS) since 1965



研究ネットワークの国際的拠点

SEASIA (アジアにおける東南アジア研究コンソーシアム) 海外連絡事務所

Consortium for Southeast Asian Studies in Asia



Jakarta



Bangkok

CSEAS fellow (海外客員部門) などによる研究者招聘

Visiting Scholar Program :
Open application
7 x 2 positions for 6 months per year
Almost 400 past scholars, 74% from Southeast Asia



Southeast Asian Seminar

Southeast Asia Seminar 2012
Cities and Cultures in Southeast Asia
20-23 November 2012
in Cebu City, The Philippines

- 1. Keynote Speech** by Resil Mojares
- 2. History and Heritage**
Speakers: Chris Baker, J.E.R. Bersales, Hope Sabanpan-Yu
- 3. Cities and Communities**
Speakers: Kenta Kishi, Loh Kah Seng, Nathan Badenech
- 4. Economic Transformation & Political Negotiation**
Speakers: Pasuk Phongpaichit, Masaaki Okamoto, Wataru Kusaka

For more information and applications, please visit www.cseas.kyoto-u.ac.jp



The Seminar is organized by Center for Southeast Asian Studies (Kyoto University) and Cebuano Studies Center (University of San Carlos) with support from "Southeast Asian Studies for Sustainable Humankind" Research Program and Japan Society for the Promotion of Science Asian Core Program



Daw Aung San Suu Kyi
1985-86 and her revisit in 2013



左から、山極総長、福田元総理、Wang教授、Pasuk教授、下山部長





京都大学東南アジア地域研究研究所



Center for Southeast Asian Studies (CSEAS) since 1965

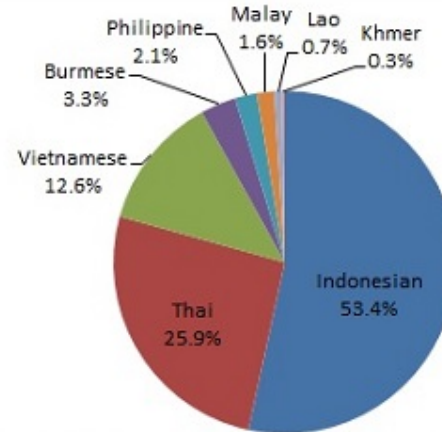
東南アジア研究の世界的拠点としての専門図書館

(approx. 270,000 titles, 1/3 in Southeast Asian vernacular)

Maps/images/database (approx. 70,000)



図書室本館は1870年代の旧京都織物会社の赤煉瓦建築を転用している
開室時間：月曜日～金曜日 9:00～17:00



Size of the CSEAS Library collection (Southeast Asian languages)

Largest collection of books in vernacular languages
85,000 (Bahasa, Thai, Vietnam, Tagalog and others)
in Asia



Map Room & Joint
research Space



京都大学東南アジア地域研究研究所

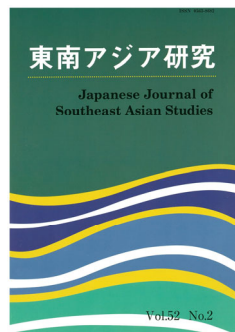
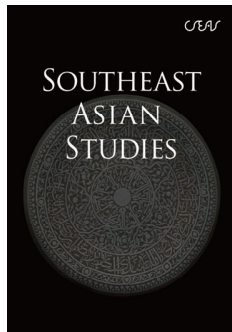


Center for Southeast Asian Studies (CSEAS) since 1965

学術発信のための編集・出版活動

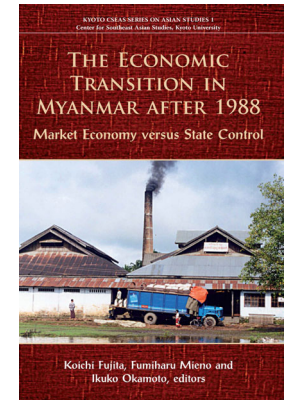
査読学術誌の発行（邦語、英語）

- 東南アジア研究（2012以前は英文論文を含む）
 - Southeast Asian Studies (English journal 2012-)
- オープンアクセス, ScopusとWeb of Scienceに所収
海外投稿比率 90%, 自然科学分野の投稿も多い

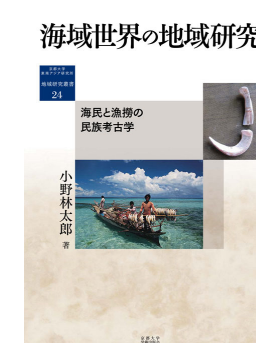
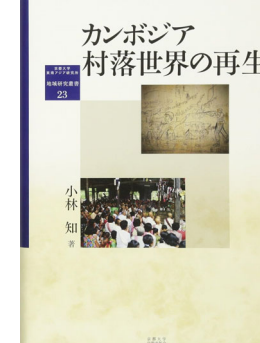


Journal title	Published by	Humanities-based	Social science-based	Natural science-based
Southeast Asian Studies	CSEAS	32%	41%	27%
Journal of Southeast Asian Studies	NUS	49%	51%	0%
Journal of Asian Studies	AAAS	73%	27%	0%
Asian Studies Review	ANU	56%	42%	2%

- Three Monograph series in English: University of Hawaii Press, Trans-Pacific Press, National University of Singapore Press



邦語モノグラフの出版（地域研究叢書、アジア環太平洋研究叢書）





京都大学東南アジア地域研究研究所



Center for Southeast Asian Studies (CSEAS) since 1965

学術発信のための編集・出版活動 - 最近の試み

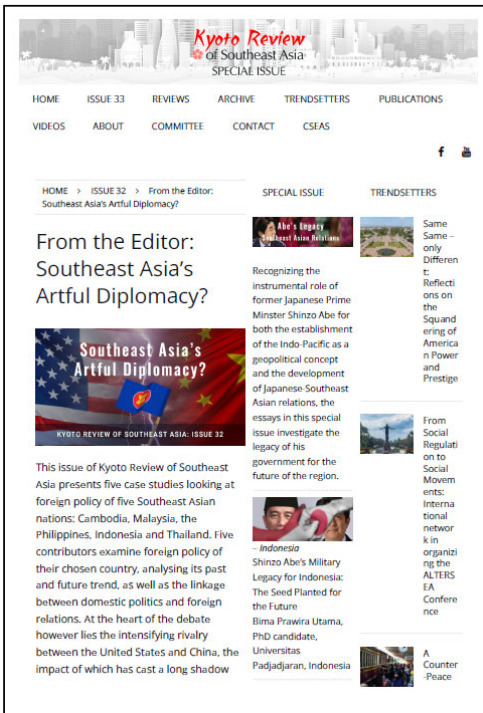
東南アジア研究多言語 webジャーナル
Kyoto Review of Southeast Asia

<https://kyotoreview.org>, 6カ国語同時配信

Book Talk on Asia

アジアについて出版を、著者とのライブトーク形式で音声発信、SoundCloudまたはYouTubeから

Book Talk on Asia ブックトーク オン・アジア




アジアに関する最新書籍を紹介するポッドキャスト。著者や編者をお迎えし、書籍の内容や執筆の背景についてじっくりお話を伺う番組です。これを聴けば、ちょっと固そうなおの本や、値段に尻込みするおの本も、読まずに中身がわかるかも・・・いや、聴いてから買って読んでも遅くない!

ナビゲーター：中西嘉宏(京都大学・准教授)
制作：京都大学東南アジア地域研究研究所編集室

YouTube: <https://www.youtube.com/playlist?list=PLYNr5XeQb9WIM8svoGgRYPkshlSO3ikW>
Sound Cloud: <https://soundcloud.com/user-153026370-46049678>
RSS フィード: <https://feeds.soundcloud.com/users/soundcloud:users:880946410/sounds.rss>





京都大学東南アジア地域研究研究所

Center for Southeast Asian Studies (CSEAS) since 1965



課題と今後の展開

- ASEAN社会・学术界との一層の共創研究の展開（ASEAN現地）
- グローバルサウス研究への展開（Beyond Southeast Asia）
- 地域課題、社会課題への研究の社会実装（日本からの政策展開）
- 情報学・データ科学の急速な発展に対応した地域情報学の新展開

➤ 目標：

日本のグローバルサウス研究展開を支える拠点・附属研究センターの設置



京都大学東南アジア地域研究研究所



研究者と研究の紹介－研究所の学問的多様性 ビデオ 2分



De Los Reyes, Julie Ann
特定助教
社会地理学、政治経済学、
エネルギー問題



山田千佳 助教
公衆衛生、国際保健、地
域研究



R. Michael Feener 教授
歴史学、人類学、建築史、
イスラム研究、東南アジ
ア研究



**人々の逸脱的行動をめぐる公衆衛生と市民運動
東南アジアにおける薬物使用に関する事例から**

東南アジア地域研究研究所 助教
山田千佳

自己紹介

- 2010年～ 東京大学大学院医学研究科 修士課程 **地域看護、公衆衛生**
- 2017年～ 神戸大学大学院保健学研究科 博士課程 **国際保健**
- 2020年～ 京都大学東南アジア地域研究研究所 ポスドク、助教 **地域研究、公衆衛生**



	実証主義	社会構成主義
真実の在り方	真実はたった1つ	複数の真実が社会的相互作用を通じて作られる
研究デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・母集団を想定したサンプリング ・定量的測定、対照を用いた介入試験 	<ul style="list-style-type: none"> ・探索的、長期的な参与観察 ・イデオロギーや権力関係の分析
研究者の立ち位置	<ul style="list-style-type: none"> ・客観的で距離を置くデータの解析者 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験や社会構造に意味づけするストーリーテラー

「逸脱」を切り口に社会を見る



Howard Becker (1928 – 2023)

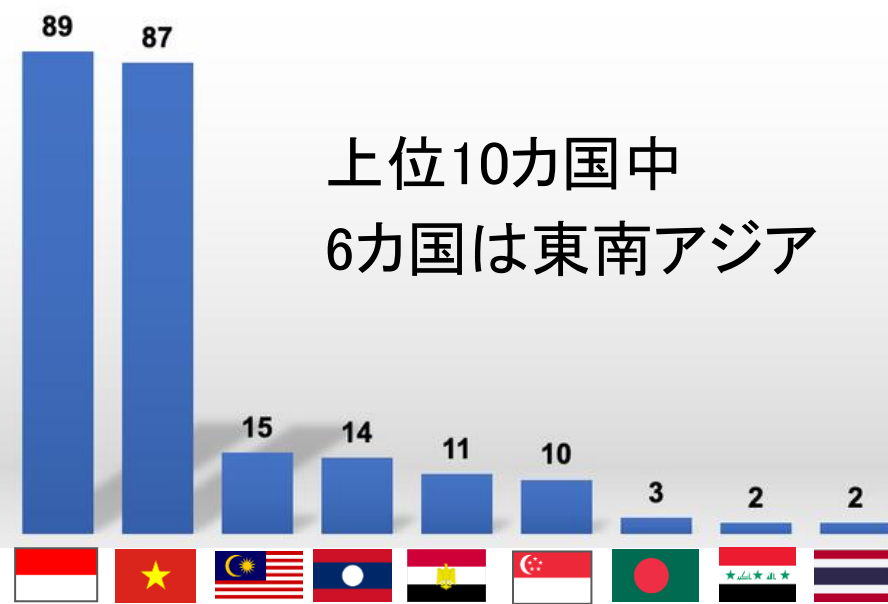
- 逸脱 (deviance) = 社会規範から逸れた「望ましくない」行為
例) 犯罪、狂気、自殺、薬物依存、幼児虐待、中絶、性的逸脱
- 元来、個人の性質(動機、性格、精神病理)によって説明されてきた
- ラベリング理論 (Becker, 1963):
ある規範に照らして望ましくないとする、その規範こそが、逸脱という行為を生み出す
逸脱というラベルを貼り付ける社会 ⇔ ラベルを貼り付けられる側
- 社会・文化・歴史的背景が違えば、逸脱行為とされるものは変化する
→ 逸脱行為は社会を理解する鍵である

薬物使用： 東南アジアを理解する上で重要な「逸脱」行為

(1) 他地域との比較： 厳罰と寛容の併存

薬物事犯での死刑判決数

[HRI, 2021]



オピオイド代替療法の提供



(2) 地域内の比較： 進行する多様化 (大麻政策で顕著)



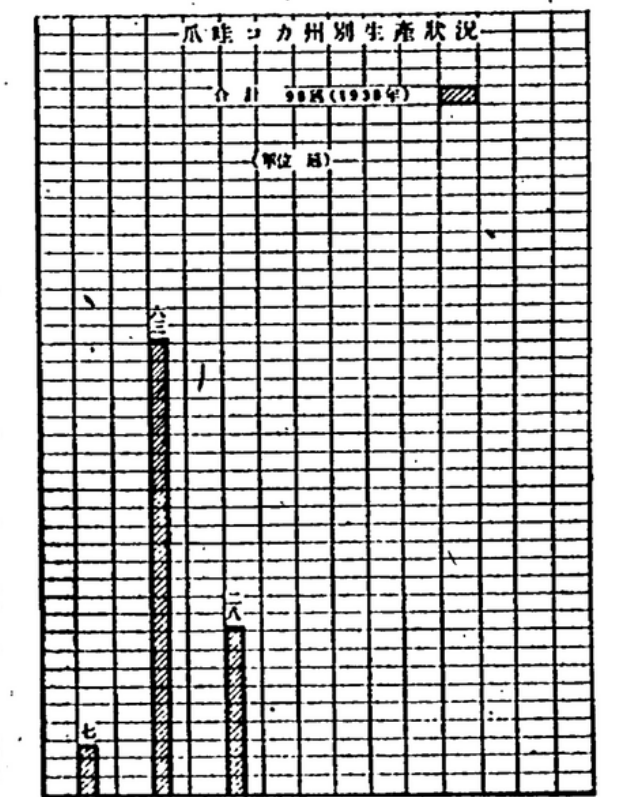
(3) 政治化と人道問題への発展



- タクシン・シナワット**
2003-2006年の麻薬戦争
麻薬使用者と密売人の射殺、超法規的殺人
- ドゥテルテ**
2016-2022年の麻薬戦争
麻薬使用者と密売人の射殺、超法規的殺人
- フン・セン**
2017年から麻薬戦争
麻薬使用者と密売人の超法規的刑務所、拷問
- ジョコ・ウィドド**
2015年から麻薬戦争
密売人の無期懲役、死刑、超法規的殺人



(4) ポスト植民地的視点の重要性



日本軍のジャワでのコカ栽培量
[軍政下ジャワ産業綜観, 1944]

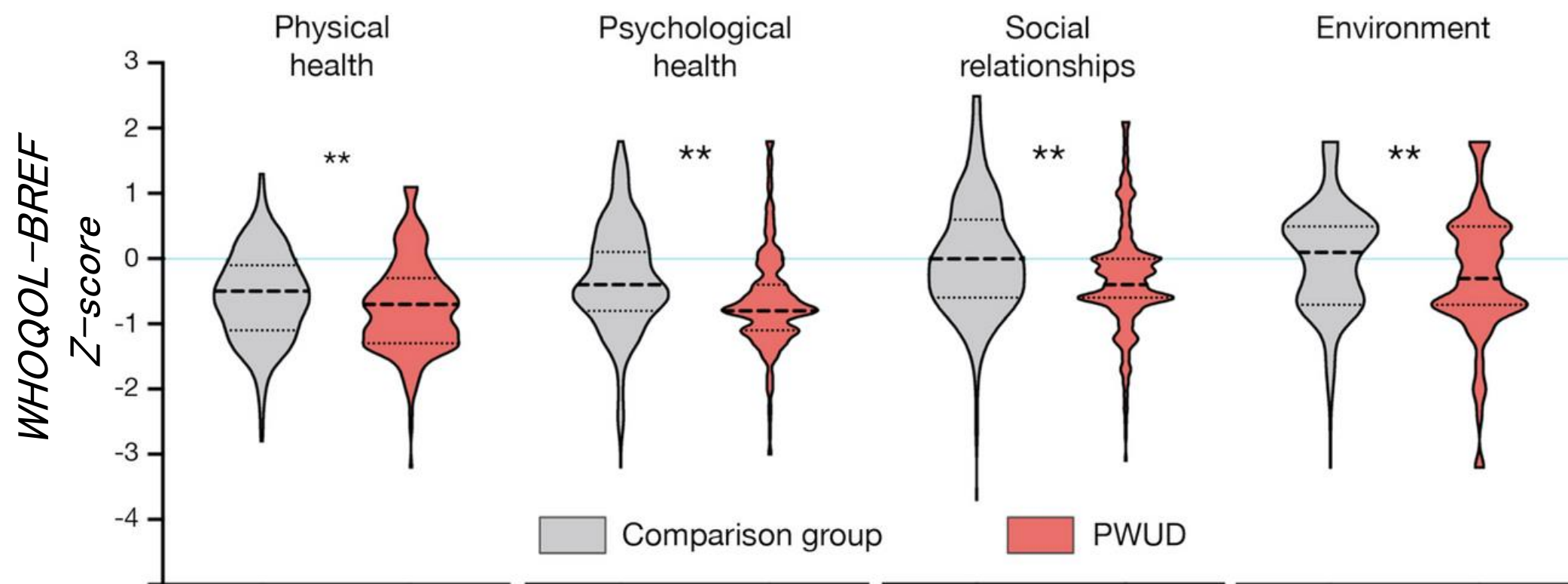
フィリピンの薬物政策が健康に与える影響



- ドゥテルテ政権による「麻薬戦争」で取り締まりの標的とされた都市部の貧困地域に居住する人々のQuality of Life(QoL) や精神保健を薬物使用歴別に比較しその関連要因を明らかにする。



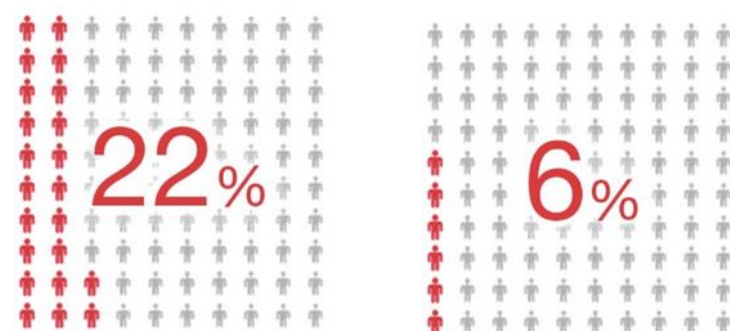
ムンティンルパ市での麻薬捜査、2018



Yamada C, et al. *International Journal of Drug Policy*, 2021

- 使用歴なし群(n=402)に比べ、使用歴あり群(n=272)のQOL得点は4領域全てにおいて低い。
- 低所得、高い精神的苦痛、被差別体験が薬物使用歴あり群の低QoLと関連していた。

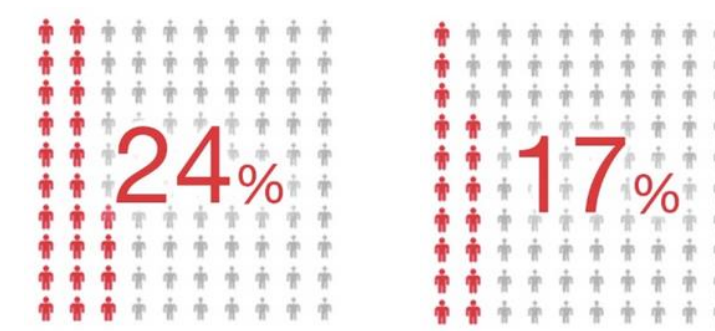
超法規的殺人によって大切な人を失った



違法薬物使用歴 3ヶ月以内にあり なし

→重度の精神的苦痛
オッズ比 3.69*
(p =0.01)

超法規的殺人を目の前で目撃した



3ヶ月以内にあり なし

→心的外傷後ストレス障害疑い
オッズ比 1.88*
(p <0.001)

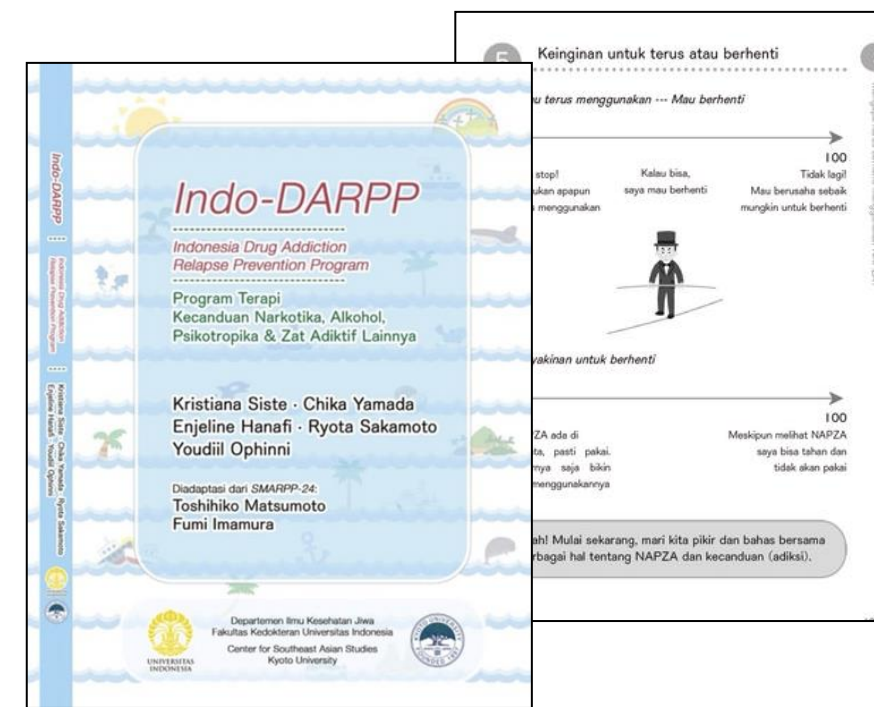
*性・年齢・社会経済状況で調整済み

Yamada C, et al. *Traumatology*, 2021

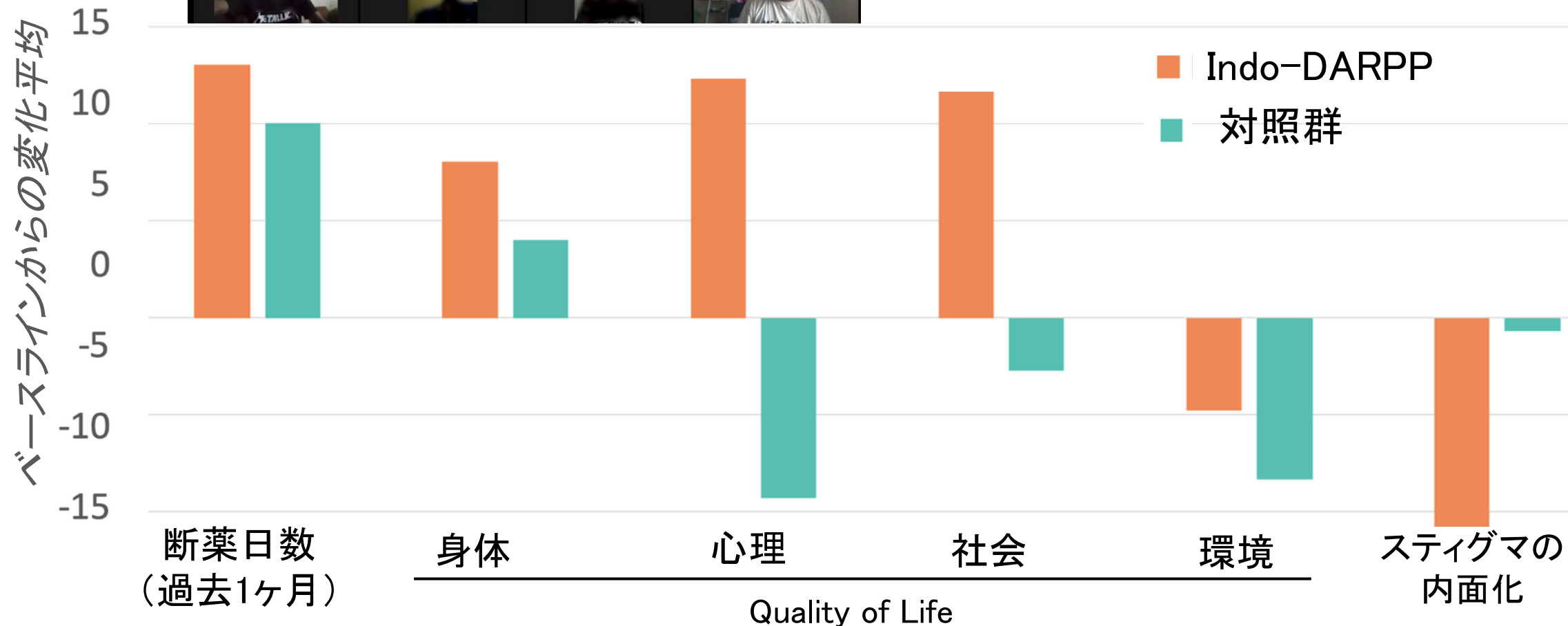
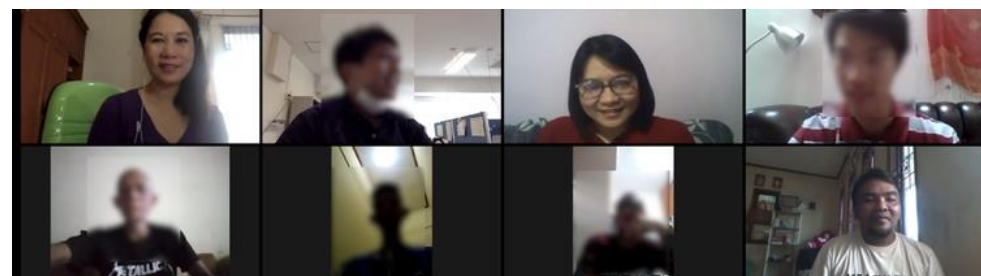
インドネシアにおける物質使用障害に対する認知行動療法の開発



- 薬物使用で逮捕→強制的にリハビリ(入院6ヶ月が一般的)
- 文化・習慣・言語への配慮。220ページ、27章。
- 集団療法(最大5名)、週1回2時間を12回(3ヶ月)
- ピアカウンセラー1名、医療従事者1名
- 実施可能性を評価するパイロット試験
- 物質使用障害の診断。Indo-DARPP群(n=4)、対照群(n=4)
- Covid-19パンデミック →オンラインに！(信頼関係？遠隔医療？)



Indo-DARPPモジュールブック
3400部を全国の保健所、
病院、リハビリ施設に配布



定性的フィードバック

- 「自宅から参加できて便利」
- 「個人的なことも打ち明けられた」
- 「分かりにくい用語があった」

75%の参加者が、対面治療よりも遠隔治療を好んだ

Yamada C, et al. *International Forum of National Institute of Drug Abuse, NIH*. 2021
 ★最優秀ポスター発表賞受賞
 Yamada C, et al. *JMIR Formative Research*, 2024

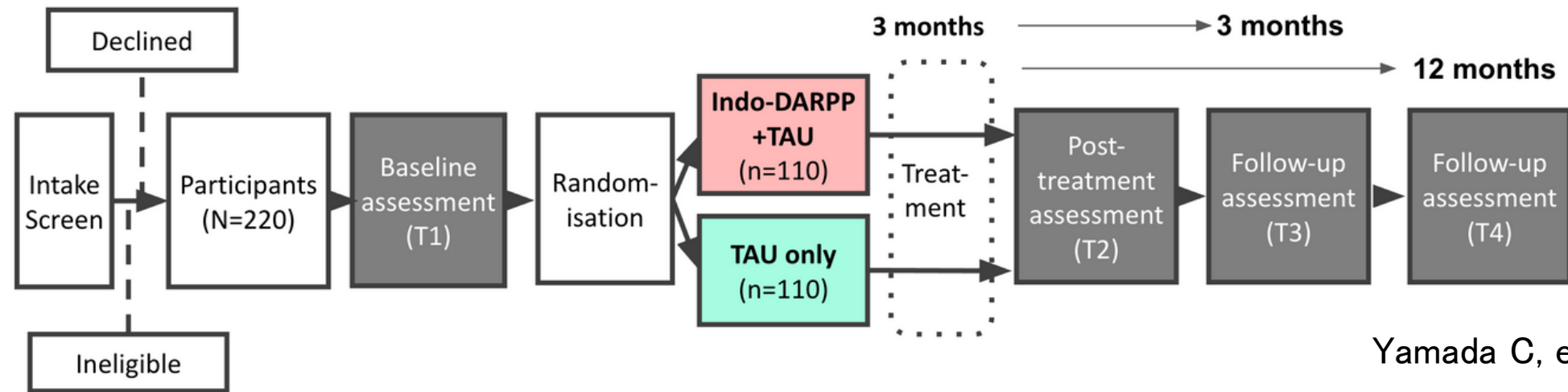
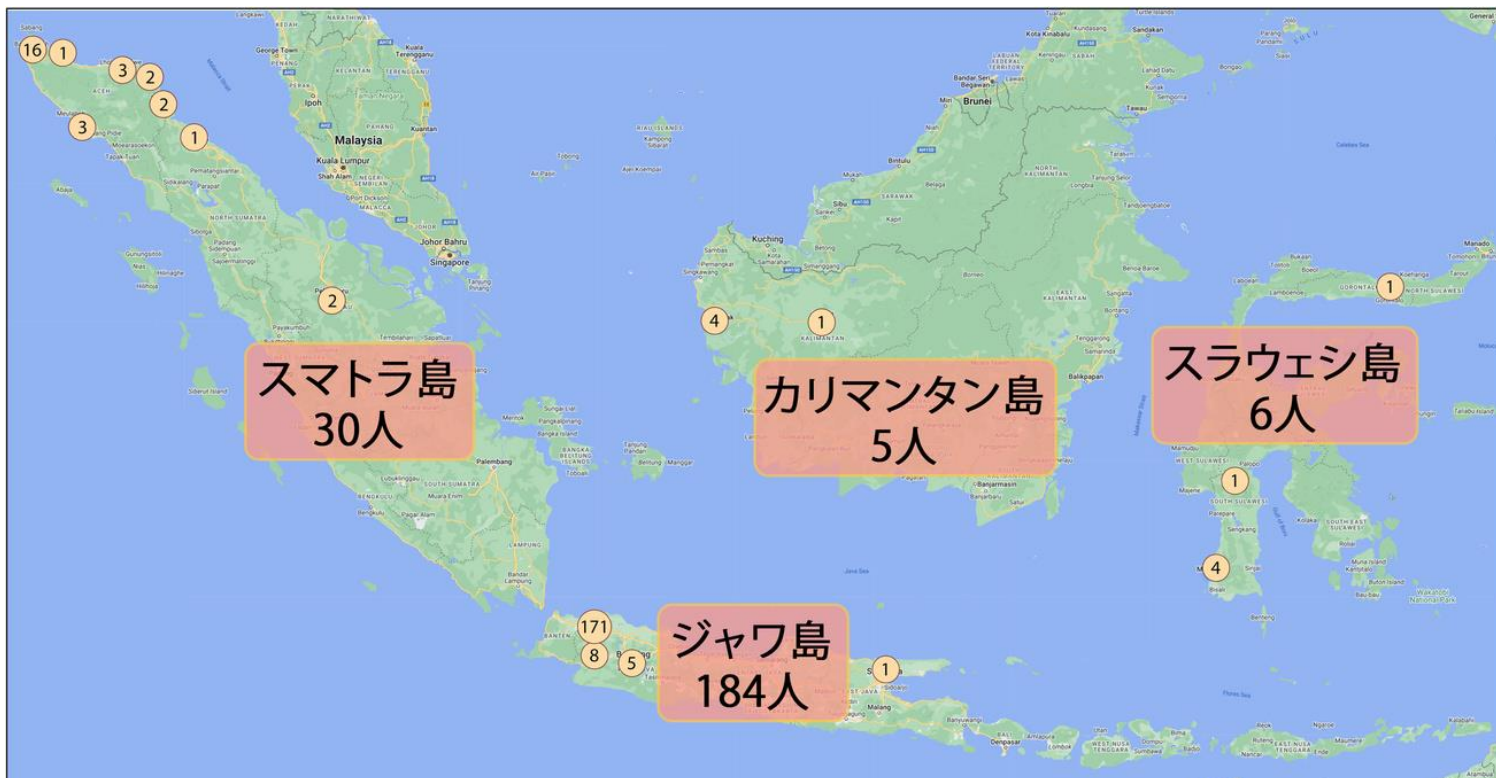
インドネシアにおける物質使用障害に対する認知行動療法の評価



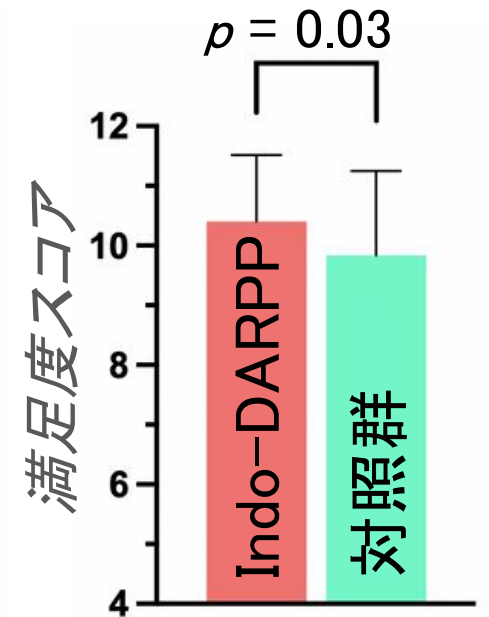
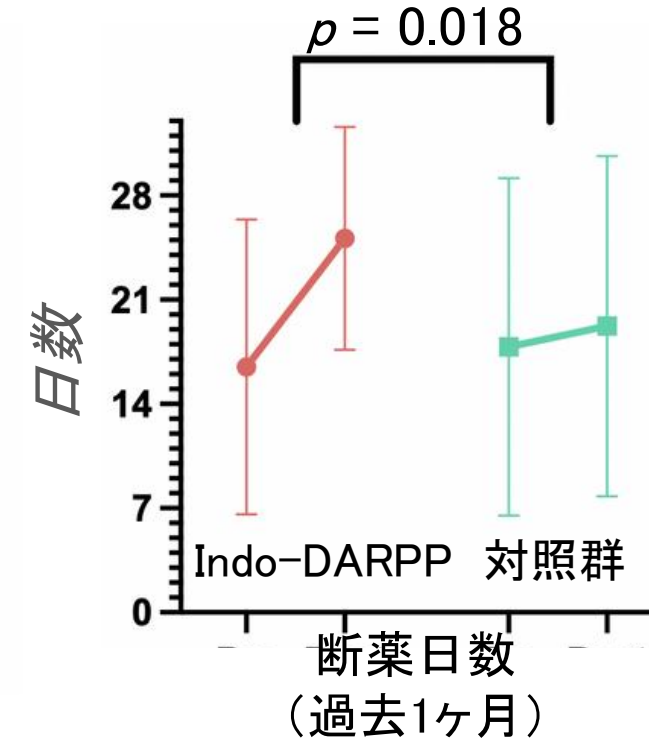
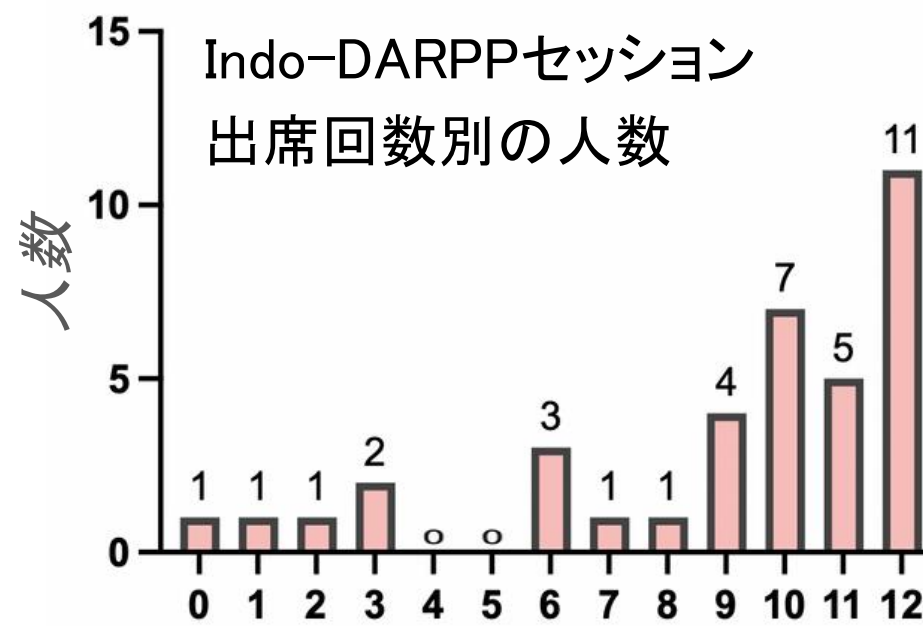
- 効果検証: 無作為化比較試験
- 8施設共同 (2大学病院、1精神科病院、2保健所、3リハ施設)
- 全国から参加者募集 (N=220)



プロバイダーへの研修

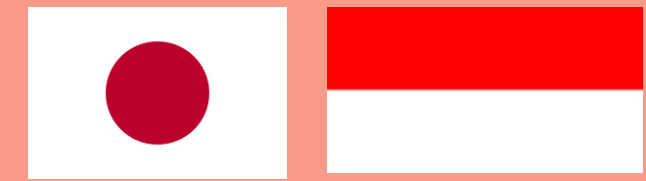


Yamada C, et al. *BMJ Open*, 2021



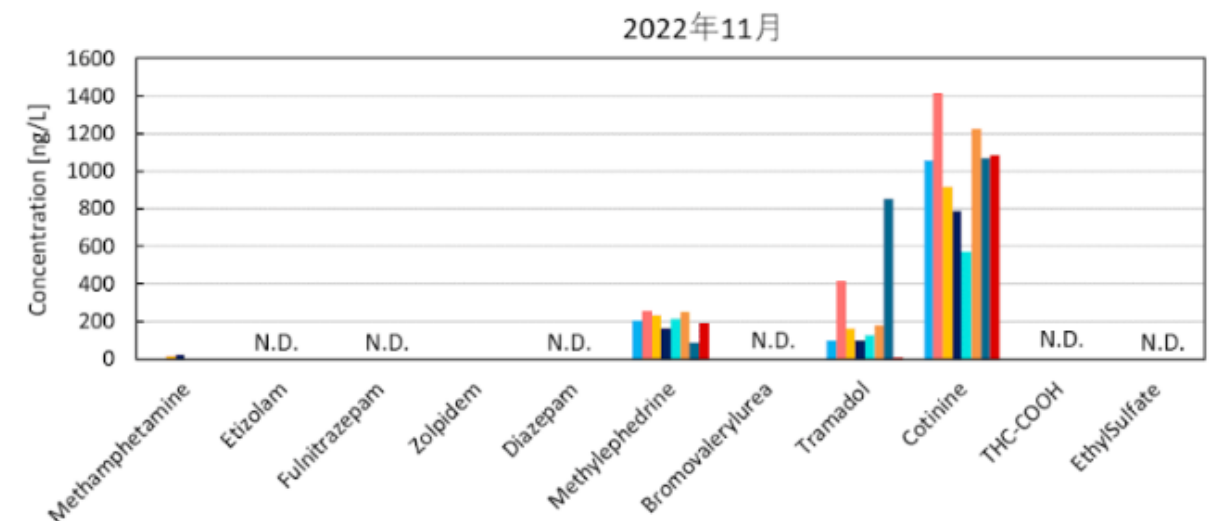
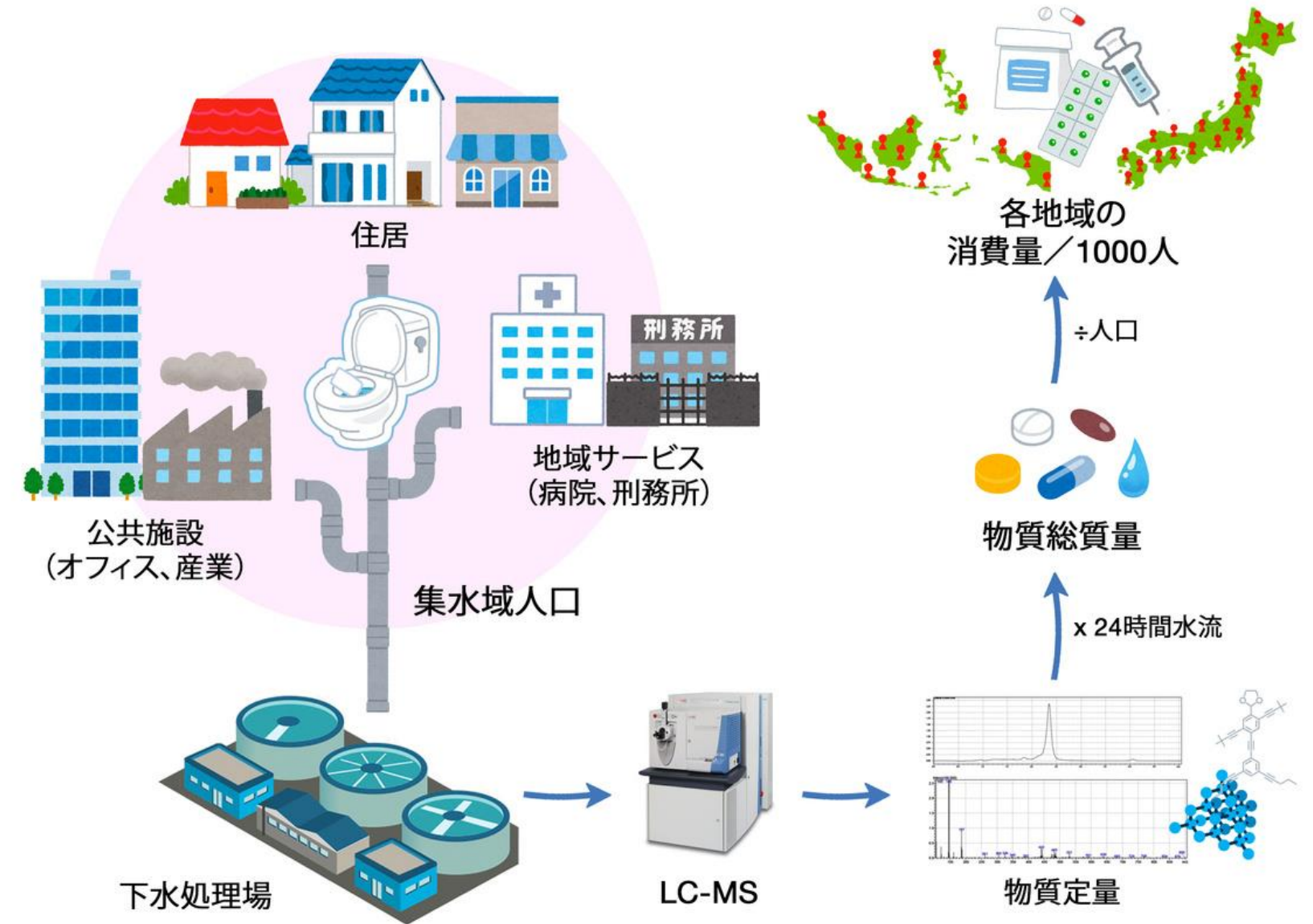
- 86%が全セッションの半数以上に参加。
- Indo-DARPPを受けた参加者の断薬日数は平均**8.2日増加**、(対照群では3.1日)
- 対照群と比べて**治療後の満足度が高かった**。

精神作用物質の下水疫学の開発



- 政策決定の根拠として利用される既存統計とその限界
- 摂取した薬物(代謝物)→尿として排泄
- 下水処理場・排水路への流入水を採取
- LC-MS(液体クロマトグラフィー質量分析)によって、代謝物濃度を測定
- 流域での親物質の消費量を推定 →国内初の取り組み

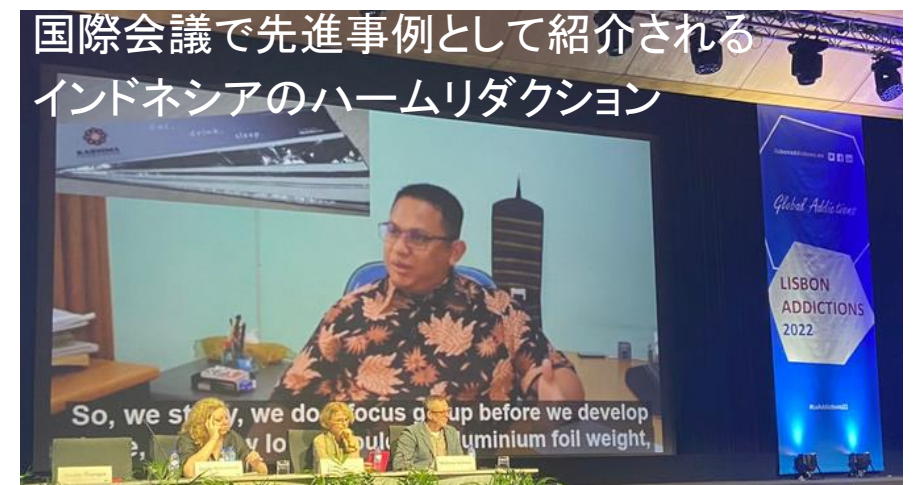
$$\begin{aligned}
 \text{親薬物の消費量 (mg/日/千人)} &= \frac{\text{代謝物の濃度 } (\mu\text{g/L}) \times \text{平均流量 } (\text{m}^3/\text{日})}{\text{人口 (人)}} \times \frac{1}{\text{安定性}} \times \frac{1}{\text{排泄率}} \times \frac{\text{親薬物の分子量}}{\text{代謝物の分子量}} \times 1,000
 \end{aligned}$$



インドネシアにおける薬物を使用する人たちによる社会運動



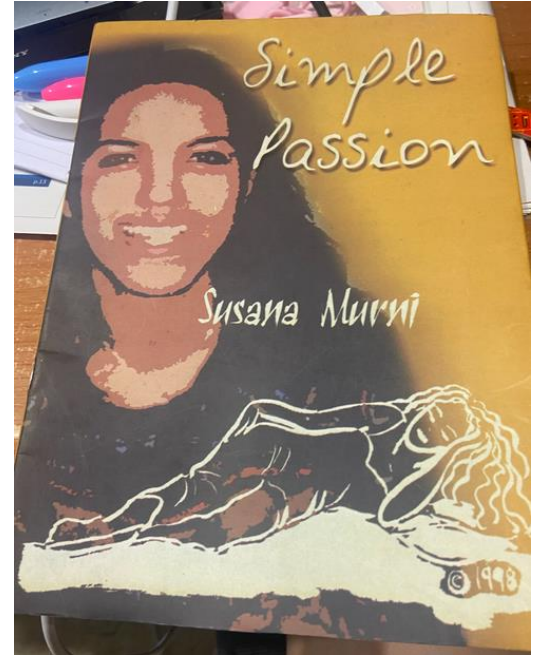
- ハーム・リダクションとは？
 - 薬物使用を禁止や削減することなく、薬物を使用する人たちとコミュニティを様々な害から守ろうとする実践や政策
- 世界的な広がり及び意義
 - 薬物使用する人たちが自分や大切に思う人の命を守るための草の根運動として始まった
 - 20世紀後半に生まれた世界で最も重要な社会運動の一つ
- 東南アジア：
 - 各国リーダーから西洋思想の押し付けであるとして一掃されることあり
 - 90年代終盤以降インドネシアを含む東南アジア各国で、ハーム・リダクション運動は開花
- 問い/関心：
 - インドネシアのハームリダクション展開の草の根レベルでは何が起こってきたのか？
 - その担い手はどんな社会を生きてきた人々なのか？
 - 「逸脱」とされてきた人たちの生き方や考え方を学び、その立場から国家や権力、医療、公衆衛生について考える。
 - インドネシア、そして東南アジア地域への理解を深める
 - 「逸脱」が「逸脱」でなくなる社会・文化・政治的な文脈とは？





インドネシア語を使ったフィールドワーク

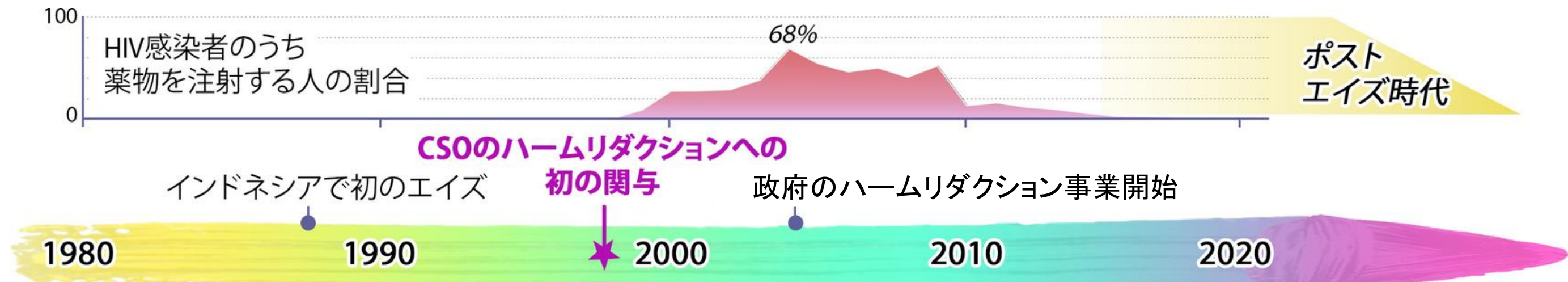
- ハームリダクション活動への参加と観察
- 長期間かかわり、私的な時間・生活空間に入り込んで学ぶ
- 過去についてのインタビュー(思い出話→思い出の地訪問)
- 巻き込まれる
- 関連資料の収集



インドネシアのハームリダクションの系譜



・インドネシアの文脈における「ハームリダクション」とは？



市民運動としてのハームリダクション

公衆衛生ガバナンスとしてのハームリダクション



- ・90年代初頭ジャカルタ、バリ等でヘロイン静脈注射が流行、90年代後半には多くの人々が亡くなった
- ・98年頃、自分や友人たちをHIV/AIDS危機から守るための草の根の応答（漂白剤、コンドーム、注射針）
- ・USAID、AusAID、Global Fundからの支援 → 国家エイズ委員会、保健省によって政策に採用
- ・近年の市民社会団体からの批判：薬物使用者が「主体」ではなく、プロジェクトの「対象」に。



活動初期の障壁(2000年代前半)

- HIV/AIDSなどの健康問題以上に、薬物使用者に対する暴行や権利侵害が重要課題であるという認識が高まる。

権利運動の勃興(2006年以降)

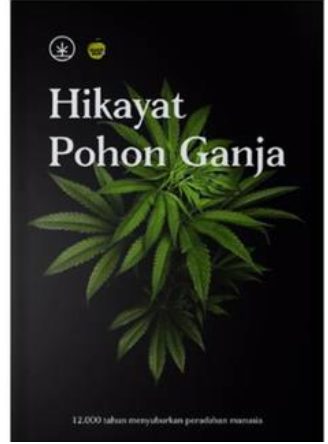
- バンクーバーで開催された国際会議に参加→**薬物使用者のネットワーク化**

司法支援

解放運動

司法支援としてのハームリダクション

- 逮捕時の拷問や死亡例が報告される中、法的支援を提供開始。
- パラリーガル養成、プロボノ・サービスや専用事務所。



解放運動としてのハームリダクション

- アクティブな使用者を中心に据えるよう要求
- 薬物の個人使用の非刑罰化の実装を推進
- 「ブラック・リハ施設」調査、報道
- 女性や性的少数者アドボカシー
- 薬物使用の歴史・文化についての出版

Yamada & Ophinni. *International Conference on Drugs Research and Policy*. Jakarta. 2024

★ 最優秀口頭発表賞受賞

Yamada. *Annual Meeting for Medical Anthropology Young Scholars*. Bologna. 2024

Yamada. *Asian Conference for Young Scholars of Southeast Asian Studies*. Taipei. 2023

ハームリダクションとは、時に相反するイデオロギーを有する、多元的なものであり、社会的に構成されて進化しつづけている。覇権的な知に挑戦する批判的思考が支えてきた。

